

学習の手引きによる国語科授業の改善

日々行う国語の授業をよりよいものにして
いきたいという願いは、国語科の教師に共通
したものである。しかし、どのような授業
を目指し、どこから切り拓いていくべきかに
ついて具体的な改善のてだてを発想すること
はなかなか困難である。本書はこのような問
題に正面から取り組んだもので、目指すべき
授業像を「子どもたちが生き生きと学習に参
加し、その中で自己実現をしていくことので
きる授業」「とりわけ、子どもたち一人ひと
りが、基礎的、基本的学力を確実に習得し
て、授業に取り残されることのない」（はじ
めにP1）ものとしてとらえ、それを実現す
るための具体的な改善のてだてとして「学習
の手引き」の活用のあるかたを多角的に考究
した書である。

第一章 学習の手引きの授業論的解明で
は、学習の手引きの概念整理および、授業に
おける機能と効果の分析が試みられている。

それによると、学習の手引きとは次のような
ものとしてとらえられている。

「ここで取りあげる学習の手引きは、指導
者が学習者一人ひとりに、主体的に学習活動
を営ませ、確かな国語力と学習力とを身につ
けさせるために、授業過程における発問・助
言・説明・指示などを、学習のしかたをも含
めて、主として書きことばによって提示した
ものである。学習の手引きは、あるまとまっ
た学習の単位について作成されるのが基本で
ある。」(P8)

このように、学習の手引きは、「国語教材
本文のあとにつけて学習問題の提示や学習活
動への指示」をするもののみではなく、口頭
による発問・助言・説明・指示と並ぶ、主と
してプリント等による書きことばで行われる
指導のてだてとして把握されている。

学習の手引きは、このように指導を円滑に
行うための方策であると同時に、学習方法や
技能的な能力を学習者に習得させる教材とし
ての役割をになうものでもある。本書では、
それら学習の手引きの授業過程における機能
として、「1 内容理解の思考誘発の機能、2

方法理解と技能化の機能、3 課題意識の明確
化と評価の機能」(P10)をあげ、多様な学
習のてびきの諸相が理論的に整備されてい
る。

第二章は、第一章の学習の手引きの理論的
解明をうけて、学習の手引きのありかたが領
域別に、豊富な実践事例をあげながら(文学
教材指導における手引き例——23例、説明文
教材指導における手引き例——7例、作文指
導における手引き例——15例)実証的に追求
されている。その概容を第二章の節立てによ
って示すと次のようである。

- 一 文学教材指導における学習の手引き
- 1 イメージの形成過程に位置づけた学
習の手引き／2 文章の読み深めをはか
るための学習の手引き／3 読後の感想
を形成し、深化させるための学習の手引
き
- 二 説明教材指導における学習の手引き
- 1 論理の構成と展開をとらえさせるた
めの手引き／2 情報探索・処理のため
の学習の手引き
- 三 作文指導における学習の手引き
- 1 作文法学習のための学習の手引き／

2 作文の基礎力の学習のための手引き

／3 作文の評価・処理の学習の手引き

本書に収録された学習の手引きは、著者が昭和五十六年まで勤務されていた広島県立教育センターにおいて、昭和五十一年から五年間にわたって小・中・高等学校の先生方とともに手がけられた「国語科の授業改善に関する実践的研究」の成果として生まれたものであり、細やかな、実践をくぐり抜けてきた生きた手引きの息づかいが読み手に伝わってくる記述となっている。また、それぞれの手引きの意図や効果を分析する著者の論述が読み手の手引き理解をいっそう深め、授業に即した学習の手引きのありかたが具体的に把握できるようにになっている。

第三章 学習の手引きを軸とした国科授業

の展開では、手引きを効果的に使用した実践事例を單元展開に即してとりあげ、授業の各過程に働く手引きの役割が考察されている。第三章の論述を手引きの役割に即して見ていくと次のようになる。

。文学教材の読みの指導の中で、イメージ化を促進する効果をもつ手引き。「山へ行く牛」小六の実践

。学び方を身につけさせ、個別学習を可能にする手引き。「自然を守る」小六の実践

。作文法や、文章を書く作業順序を指導する手引き。「作文「弟のお使い」小五の実践

。基本学習「走れメロス」の読解を行つたあと、発展学習として複数の教材を扱う、主題単元的な学習展開をささえる手引き。「單元「小説の中の人間像」中二の実践

。文章の論理的構成をとらえ、文章の展開に即した内容理解をはかる手引き。「ラスコ―洞窟の壁」中二の実践

。生徒の持つ意見を拡充・深化させ、構成させるための手引き。「作文「社会を見つめて―意見文を書く―」中二の実践

国語科の授業に学習の手引きをとり入れることで、右のような効果をあげ得ることが、理論上だけではなく実践的に実証されている点で本書は大きな成果をあげたと考えられる。

実践家があるねらいをもって授業に臨む時それを達成するために作るプリント・学習の手引きの類は、類型化がむずかしく、指導の

ねらいや教材の性格、生徒の実態などによってその都度様々な形となって現れるものである。このとらえがたいもの、しかし、確かな価値を持つと思われる手引き、プリント類を授業論の中に位置づけ、その役割や効果を理論的に究明していくことは、国語科教育の進展に大きく寄与するものであろう。本書はその研究に取り組み、成果を世に問うた書として画期的であり、後続研究に手がかりを与えてくれるものとなっている。また、本書に豊富に盛り込まれた手引きを用いた実践は、読者に明日の授業を創造するための刺激と活力を与えてくれるであろう。

(B5版、二二九ページ。昭和六十二年四月、明治図書刊。二、二〇〇円)

(池田悦子)